

令和8年3月に浦ノ内湾で発生した養殖魚のへい死について

高知県水産業振興課

令和8年3月上旬に浦ノ内湾で発生した養殖マダイ等のへい死について、県では国の研究機関等と連携して原因究明を進めています。

これまでの調査で、養殖魚がへい死した際に大量発生していた植物プランクトンは、ハプト藻の一種である「ハプトリナ・フラガリア」であることが分かりました。この「ハプトリナ・フラガリア」については、魚への有害性を含め情報が極めて少ないため、本種と養殖魚へい死との因果関係はまだ分かっていません。このため、現在、本種の魚に対する有害性等を調べるための試験を行っているところです。

また、同月下旬に発生したモジャコのへい死も、同様に原因究明に取り組んでいるところです。

県では、引き続き、こうした取組を進め、進捗状況を適宜、関係者の皆様に情報共有させていただきます。

本件に関する問い合わせ先
高知県水産振興部水産業振興課
鈴木・岡見・木村・土居

電話：088-821-4829

ファックス：088-821-4528

メール：040401@ken.pref.kochi.lg.jp